

令和8年度学校自己評価システムシート(県立越谷北高等学校)

目指す学校像 高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルリーダーを育成する。

重点目標

- 1 すべての教育活動における「主体的・対話的で深い学び」によって、一人一人の生徒の主体性を伸長する。
- 2 理数教育やSSHの取組の充実と「リベラルアーツ」教育の実現によって、グローバル人材としての資質を高める。
- 3 地域と連携し、高い進路目標を掲げ、自己実現を目指す学校の情報を発信し、学校の評価を高める。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者 名
 生徒 名
 事務局(教職員) 名

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		実 施 日 令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 授業を中心に学力向上と進路希望実現を図る体制を整えている。 主体的・協働的な学びの重要性は共有され、探究的要素や教科横断的な視点を取り入れた取組も見られる。 一方で、生徒の学習姿勢には受け身の面が残り、主体性や対話の深まりには教科・学年差がある。</p> <p>【課題】 生徒が自ら考え、問いをもち、学びを深めることができるよう、授業全体を通じた指導者の転換を進める必要がある。 学習プロセスを意識した授業設計や振り返りを工夫し、教科横断的な学びを組織的に推進する体制づくりが求められる。</p>	①主体性を引き出す授業改善と学習プロセスの工夫	<p>a 生徒が自ら考える時間と活動を確保した授業設計の推進</p> <p>b 学習プロセスを可視化し、生徒が自ら学びを調整できる仕組みの導入</p> <p>c 生徒同士の対話や協働を通して、考えを表現・共有し、思考を深める授業の定着</p>	<p>A 生徒が自ら課題を見だし、考えを表現する場面に授業内に設定されているか</p> <p>イ 生徒が学習の振り返りを行う仕組みが機能しているか</p> <p>ウ 対話的・協働的な学習を通して生徒の思考が深まる場面が増えているか</p> <p>エ 生徒の質問・意見発信の頻度が向上しているか</p>			
		②生徒を「深い学び」に導くための教科横断的な取組	<p>a 実社会・実生活と結びつけた課題設定による教科横断的な学びの創出</p> <p>b 学際的な分野における各教科・科目からのアプローチ</p> <p>c 教科間の連携を促す教員協働の仕組みづくり</p>	<p>A 生徒の学習観が、知識・技能に偏らず、リベラルアーツの視点や教科横断的理解へと広がっているか</p> <p>イ 生徒の思考が多面的・多角的な視点が見られるようになったか</p> <p>ウ クロスカリキュラムのシラバス・指導案の作成および授業実践が増加したか</p> <p>エ クロスカリキュラム推進のための校内組織が整備・機能しているか</p> <p>オ 教員間の連携(会議・教材共有・授業参観)が充実しているか</p>			
2	<p>【現状】 SSH、探究活動、理数教育、国際交流など、多様な学びの機会が確保されている。 学校行事や外部連携を通して、生徒が主体的に関わる場面も見られる。 しかし、それぞれの取組が必ずしも相互に関連付けられ、学びとして統合されているとは言えない。</p> <p>【課題】 理数・探究・国際教育を関連付け、思考力や発信力を育成する統合的な学びとして深化させる必要がある。 体験活動を振り返り、学習や価値観の形成につなげる指導と評価の工夫が求められる。</p>	①理数・探究・国際教育を統合した高度で多面的な学びの推進	<p>a SSH・探究学習の体験型活動を通して課題発見力の育成</p> <p>b 学校設定科目による課題解決力の育成</p> <p>c 探究・研究活動の発表会による発信力の育成</p>	<p>A 生徒が自ら課題を見いだす発言・記述が増加しているか</p> <p>イ 課題設定→情報収集→分析→解決案提示のプロセスが定着しているか</p> <p>ウ 発表内容の構成・論理性・根拠提示が向上しているか</p> <p>エ 異文化理解・協働姿勢・論理的思考などに成長が見られるか</p> <p>オ 課題研究発表会の質が向上し、プレゼンテーション能力が高まっているか</p>			
		②SSH課外活動・国際交流・学校行事・外部連携を通じた主体的な学びと価値創造の促進	<p>a オーストラリア派遣を主軸とした国際交流によるグローバルな視点の醸成</p> <p>b しらかばと祭・体育祭における生徒のリーダーシップ育成</p> <p>c 北高探究の日や北高探究フォーラム等のアウトリーチ活動による主体性の伸長</p>	<p>A 異文化理解・国際課題への気づきや課題意識が生まれているか</p> <p>イ 学校行事の企画・運営が生徒主体で行われているか</p> <p>ウ 外部機関との協働活動において生徒が主体的に取り組んでいるか</p> <p>エ 複数の体験を関連付けて新たな価値を創出できているか</p> <p>オ 様々な体験を通して生徒の経験値や自己肯定感が高まっているか</p> <p>カ 理数教育の拠点校として、地域に成果を波及させることができたか</p>			
3	<p>【現状】 大学進学を中心とした進路希望の実現が、学校経営の柱として位置付けられている。 キャリア教育や進路指導を通して、生徒への支援体制は整えられている。 一方で、失敗を恐れ挑戦に消極的な生徒の様子も見られる。</p> <p>【課題】 キャリア教育と日常の学習・探究活動との関連をより明確にし、高い進路意識の形成・維持を図る必要がある。 生徒が安心して挑戦できる環境づくりと、学校の取組を地域・保護者に発信する体制の強化が課題である。</p>	①キャリア教育を基盤とした高い進路希望の実現を支える指導体制の充実	<p>a 3年間を通じた計画的なキャリア教育の実践</p> <p>b 第一希望の進路実現を支える個別最適な支援体制の強化</p> <p>c 進路情報の充実</p>	<p>A 年間指導計画に基づきキャリア教育が機能的に実施されているか</p> <p>イ 高い進路希望を形成・維持するための取組が行えたか</p> <p>ウ 受験対策・個別指導・保護者面談が適切に実施されているか</p> <p>オ 大学・専門学校・企業等の最新情報が適切に収集・提供されているか</p> <p>カ 第一希望進路の実現率が向上しているか</p>			
		②生徒が安心して挑戦できる学校環境の整備と支援体制の強化	<p>a 規律と安心感のある学校環境の整備</p> <p>b 学校の取組や成果の積極的発信による地域からの信頼醸成</p> <p>c 保護者との情報共有と協働による生徒支援体制の強化</p>	<p>A 規律ある学校生活が定着し、主体的な「挨拶」が行われているか</p> <p>イ 校内の清掃・美化活動が計画的に行われているか</p> <p>ウ 行事・学習成果・地域連携などの情報が様々な媒体を用いてタイムリーに発信されているか</p> <p>エ 地域や学校関係団体等との連携を通して、地域・保護者から本校に対する期待感、信頼度は高まっているか</p>			